

「ぼくらはみんな生きている」を読んで 5年

今年の夏、上野動物園の、サマースクール飼育教室のぼしゅうがあったので、おうぼして参加しました。担当はフクロウでした。フクロウは小動物をとってえさにしているので爪とくちばしがするどく危ないため手袋をはめないといけませんでした。私も、ぶあつい手ぶくろをはめて、フクロウのオオコノハズクを手にのせました。思ったより、軽く感じました。びっくりした事は、左右のひとみの大きさがちがったことです。それは、フクロウは人間とちがって左右の目を別々に動かすことができるので、左の目と右の目に入った光の量がちがい、ひとみの大きさが変わってしまうからです。次に鳥の小屋のそうじをしました。動物園には、上まできちんとネットがかかっているところやそうでないところもあります。私がそうじした鳥小屋は、建物の中にあるので、スズメなどの鳥が入りこんでえさをとれないようになっていました。この本にも書いてありましたが、カラスよけのネットがプレーリードッグの所にはってありました。プレーリードッグの赤ちゃんをカラスがねらうからです。カラスの赤ちゃんにも栄養が必要なのはしょうがないけれど、私はいやな気がしました。カラスがふえたのは人間がカラスのすみかをこわしてしまったからです。その他に、ゴイサギ、アオサギ、スズメ、ヒヨドリ、キジバトが来ます。このような動物園に勝手にやってきている動物をビジターといいます。私がおどろいたのは、飛んでやって来るだけでなく、サルやタヌキが歩いて来るということです。きっと、えさがほしいからだと思います。もし私が動物園の動物だったら、ビジターはずるいと思います。しかし、動物園の動物は、おりの外を知らないからここまでえさを取りにこなくてはならない、外のきびしさを知らないのです。

上野動物園には、大きくなり過ぎたり、飼うのにあきてしまったりしてこっそり捨てられたワニやヘビやカメなどがいました。本にも、亀戸天神のカメの日本のカメが、外国のカメにせんりょうされている話が書いてありました。元々日本にいなかった動物が輸入され野生化したことが問題になっています。これも、人間のせいです。この他に都会にタヌキが住んでいる話が書いてあります。私の家の近くでも、見かけた人がいます。私も見てみたいです。作者も書いているように、自然が無くなって仕方なく都会でくらしているということも分かっているかなければいけないと思いました。

私は人間が好きなのよとか、便利なよとか、してきた事が動物の生活をこわしてしまったのだと思いました。しかし、よく考えると人間も動物だから同じように自分達の生活をこわしているのだと思います。